

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成19年7月6日

施設名	高知県立文学館	所管課室	文化推進課
-----	---------	------	-------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日
施設所在地	高知市丸ノ内		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p>面積・施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><建物>延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建</p> <p><土地> 4,747㎡</p> <p><主要施設> 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など</p> <p><開館時間>午前9時～午後5時</p> <p><休館日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 常設展 一般350円 高校生以下、県内の65歳以上は無料</p> <p>施設利用料 企画展示室 22,640円(1日)</p> <p>ホール 12,200円(全室/1日)</p> <p>茶室 3,490円(全室/1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 5人	契約職員: 11人	合計: 16人

2 収支の状況

単位:千円

		平成17年度(決算)	平成18年度(決算) 注2	平成19年度(予算)
収入	県支出金	113,484	128,220	134,545
	事業収入		2,868	5,783
	その他		2,370	4,783
	収入計	113,484	133,458	145,111
	(事業収入)注1	3,658		
支出	事業費	18,749	16,888	37,972
	管理運営費	94,735	95,585	97,478
	(うち人件費)	(68,787)	(62,391)	(70,612)
	その他	0	8,489	9,661
	支出計	113,484	120,962	145,111

注1 平成17年度は「指定管理者制度」導入前であり、事業収入は県の収入。

注2 平成18年度以降は文化財団総務部の経費を5つの施設で按分計上(平成17年度は美術館に全額計上)

3 利用状況

		平成17年度実績	平成18年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人) 注)貸館入場者を含む	常設展	11,296人	4,870人	-6,426人
	企画展	5,802人	6,657人	855人
	貸館	16,098人	31,735人	15,637人
	ホール	2,946人	1,513人	-1,433人
	茶室	3,346人	3,656人	310人
	合計	39,488人	48,431人	8,943人
	<p><利用実績> 企画展示室を土佐24万石博の関連企画の会場として提供したという特殊事情により、貸館としては前年に比べ利用者は倍増しているが、反面、館独自の常設展への入場は減少した。企画展を行える期間にも制約があったが、入館者は全体で前年度比22.6%増の48,431人となっている。</p>			

利用者意見等の反映	利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・来館者対象のアンケート実施、イベント参加者への事業別アンケートを実施 ・カルチャーサポーターとの意見交換を行い、利用者としての立場から意見をいただく。 改善例: アンケートで要望の多かった喫茶機能について検討を行い、館内休憩コーナーへ飲料自動販売機を設置した。
	その他 クレームは記録し、毎朝のミーティングでの伝達や回覧等で職員の共通認識となるよう努めている。また外部有識者による「文学館運営協議会」を開催している。
その他特記事項	の館の利用のほか、以下のような活動を行った。 〔教育普及事業〕 文学専門講座 5回(189人) 児童生徒文学作品朗読コンクール 42校(100人) 朗読の会 月2回 記念講演会 242人 講座・ワークショップ等 651人 紙芝居ボランティア公演ほか 487人 児童生徒朗読劇 100人 高校文芸部合同による同人誌制作 4校19人

4 平成18年度業務評価

項目	状況説明
管理運営に関する評価	施設設備の管理、危機管理体制、法令遵守など、概ね適正に管理がされている。 ・少ない人員体制ながら適切に管理運営が行われている。 ・平成18年度は、企画展示室(時期によっては全館)を土佐24万石博の関連企画の会場として提供したという特殊事情により、収入確保の取り組みがしづらい面があり、予算時の収入目標には達していない。支出面では、経費節減の努力による成果が認められる。 ・可能ならば、専門職員を増やすなど体制の充実が望まれる。 ・より入館者の視点にたって取り組みを進めてほしい(これから文学の世界に入っていくという展示室の工夫や、子どもにとっても大人にとっても見やすい展示の工夫、説明内容など)。
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	資料の収集・保存、展示・企画事業、調査研究、教育普及事業の各事業において適正な事業の実施が行われた。 ・学芸員が対外的にも信頼され評価されていることが、貴重な資料寄贈につながっている。 ・今後の課題として、資料データをインターネットで提供するなど、データ公開の取り組みを検討するべき。 ・平成18年度は、自前の事業活動を制限して県が進める土佐24万石博関係の企画展示に館全体を提供するなど、観光施策には、大きく貢献した。今後も、本来の文学館活動を通じて、交流人口の拡大などに繋がる取り組みを期待する。 ・常設展示についてはリニューアルの計画があるが、その内容によっては魅力向上につながる。リピーターの確保に向けて取り組んでほしい。 ・今後は、現在対象としている作家の顕彰だけでなく、現在活躍している、あるいはこれからの活躍が期待される県ゆかりの作家にも視点をあてるべき。 ・施設の認知度が低い。今後の広報の充実を期待する。 ・カルチャーサポーターをはじめとする応援団や県内の文学活動者、専門家との連携をより進めてほしい。
総合的な評価	・大人、子どもを問わず県民の文学への関心を高める場としての努力をしている。 ・今後は、本県の文学者の多様性を生かした企画展の開催や全国へ情報発信する取り組みの充実が望まれる。
総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">B</div> <div> <p>・専門性の確保と文学の興味を拡げるという両面に関して努力をしており評価できる。地味ではあるが、企画展とタイアップした講演会、解説、朗読の集いなど、面白い取り組みを着実にやっている。</p> <p>・高知の文学者の多様性を生かし、「高知の文学館」の独自性を発揮することが課題となる(例えば、顕彰の対象以外のゆかりの作家など現在活躍している方々の紹介や、比較的一般に知られていない鹿持雅澄についての研究と展示を検討するなど)。</p> <p>・展示が一律で見せる工夫に欠ける面があるため、常設展のリニューアルの計画は有効。常時紹介する作家を減らして時期で入替える考えはいいが、展示のない時期の作家資料の提供の仕方に留意が必要と思われる。</p> <p>・リニューアル計画にある「キッズコーナー」の考え方は、県立図書館、市民図書館、子ども図書館など既存施設との違いや文学館ならではの特徴を出すよう求める。</p> <p>・接客対応を含めた来館者へのサービス向上について組織的な対応を進める必要がある。</p> <p>・組織体制の充実については、指定管理者だけの努力ではできない面があるため、県等との協議が必要。</p> </div> </div>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの